



## 業界動向 NPO手元供養協会が10周年記念シンポジウムを開催

NPO手元供養協会（本部京都市中京区、会長山崎譲二氏）は、9月12日、東京・渋谷の「アットビジネスセンター渋谷東駅前」で、創立10周年を記念するシンポジウム「日本のお墓のゆくえ」を開催した。

会場となった503号室には、手元供養品や、関係者の著作、創立10周年の歩みなどが展示され、シンポジウムの前に全国の各支部、公認支援団体の代表によるひと言アピールが発せられた。

シンポジウムは2部制。第1部では、山崎会長の開催挨拶に続いて、臨済宗東福寺派教学部長で即宗院住職の杉井玄慎師が基調講演。「生きるということ。供養とは？」と出された講演は、自身の体験に基づいて、供養の意味やいまを生きることの大切さが語られた。続く、第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部主席研究員の小谷みどり氏の基調講演「日本のお墓の現状とこれから」では、わかりやすい豊富なデータをもとに、価値観が多様化した社会での供養の形が問いかげられた。今後の活動テーマとして小谷氏は、孤独な高齢者を減らすための高齢婚活の推進をあげた。第2部では、「日本のお墓のゆくえ」と題しパネルディスカッションを開催。各分野の専門家や研究者が少子高齢化、多死社会、終活ブーム、多様化する葬儀や墓などについて、多彩で活発な意見を交換し、終盤には参加者も交えての討論となった。

手元供養協会は、手元供養が墓や散骨などとともに、葬送の1つの選択肢として広く普及するため、手元供

開催挨拶に立つ山崎譲二会長



講演する小谷みどり氏（第1部）



第2部のパネルディスカッション。パネリストは、左から八木澤壯一氏、山崎譲二氏、河野篤史氏、本田圭子氏、村田ますみ氏、島田裕巳氏、杉井玄慎師

養を実施するための具体的な情報やその関連情報を提供している。10年間の歩みの柱の1つ、「自分らしい葬送を考える企画展」は北海道から九州まで、全国22都市、延べ4,000人の来場者を集めている。今後も既存の葬祭事業者と手を携え、手元供養を日本の新しい供養文化として広めていくため、さまざまな活動を続けていくという。

◆問合せ NPO手元供養協会（本部）

京都市中京区寺町通夷川上ル久遠院前669

サンアートビル4階 博國屋内 ☎075-257-7838

<http://www.temoto-kuyo.org/>

### 【パネリスト】（敬称略）

- 杉井玄慎（臨済宗東福寺派教学部長／即宗院住職）
- 島田裕巳（NPO法人葬送の自由をすすめる会 会長／宗教学者）
- 村田ますみ（一般社団法人日本海洋散骨協会代表理事）
- 本田圭子（NPO法人遺言相続サポートセンター理事）
- 河野篤史（静岡の石屋六代目／日本石材産業協会顧問）
- 八木澤壯一（NPO手元供養協会顧問／東京電機大学名誉教授）
- 山崎譲二（NPO手元供養協会会長）